

⑪ 公開特許公報 (A) 平1-236005

⑫ Int. Cl.
A 45 B 25/18識別記号
A-6766-3B

⑬ 公開 平成1年(1989)9月20日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全8頁)

⑭ 発明の名称 傘地およびその製造方法

⑮ 特願 昭63-64080
⑯ 出願 昭63(1988)3月17日

⑰ 発明者 今川 猛 愛知県名古屋市中川区西日置2丁目6番5号
 ⑱ 出願人 今川 達也 愛知県名古屋市中川区西日置2丁目6番5号
 ⑲ 出願人 今川 康仁 愛知県名古屋市中川区西日置2丁目14番1-802号
 ⑳ 代理人 弁理士 岡田 英彦 外3名

明細書

1. 発明の名称

傘地およびその製造方法

2. 特許請求の範囲

1. ほつれ止めされた縫目構造をもつ絹編地を裁断した裁断片によって作成され、かつ、縫縫い処理されていない裁断縫、若しくは、この裁断縫に装飾用の縫縫い処理を施した装飾縫によって外周縫を形成したことを特徴とする傘地。

2. 請求項1記載の絹編地をほぼ正多角形状に裁断した裁断片を、その中心部とその各頂角部の先端とを結ぶ線を折り目としてそれぞれ2つ折りにし、この各2つ折り部の外端付近をそれぞれ斜めに切削しながら接着することを特徴とする傘地の製造方法。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は雨傘やパラソル等に着用される傘地およびその製造方法に関する。

(従来の技術)

傘地用平縫生地を三角形状に裁断した複数枚の裁断片を縫い合わせて形成される従来の縫い合わせ傘地ではその外周縫の糸ほつれを防止するために前記裁断片の周縫の一部を予め縫縫い処理していた。例えば、第8図(イ)に示すように帯状の傘地用平縫生地 τ の両側縫 τ_1 , τ_1 をそれぞれ巻き込みミシンで縫縫い τ , τ を施してから、両側縫 τ_1 が縫縫いされた平縫生地 τ を多重に積み重ねた状態でカッタ等によって三角形の型に合わせて裁断し、次に、例えば8枚の裁断片 s を、縫縫いされた端縫が外周縫を構成するように縫い合わせて傘地を作成していた。また、第8図(ロ)に示すように傘地用平縫生地 τ をヒートカッタで1枚づつ溶断して外周縫が溶着された裁断片 s を形成し、この裁断片 s を適数枚縫い合わせて縫い合わせ傘地を作成していた。さらに、特公昭59-13866号公報に開示されたように、正多角形状に裁断した一枚張り傘地用裁断片の各頂角部にそれぞれ切込みを予め設け、この切込みをオーバロック縫い等によって接着しつつ外周縫に縫縫

い処理を施して一枚張り傘地を作成していた。

(発明が解決しようとする課題)

上記縫い合わせ傘地の作成に際し、縫い処理された平織生地りを多枚枚積み重ねて裁断する場合には積み重ねられた積み重ね層との両側部の厚さが増大してこの両側部が局部的に膨出し、裁断作業が困難乃至不能となるため、傘地用平織生地の積み重ね枚数が制限され、裁断片Sの生産能率が著しく低下してコスト高となる問題点や、積み重ね枚数を制限しても裁断形状が不正確となるため、熟練作業者が必要となる問題点があった。また、傘地用平織生地をヒートカットする場合には1枚づつ切断するため、生産性が低下してコスト高となるばかりでなく、ヒートカットされた溶着線が経時に脆化して再び糸ほつれが起生する問題点があった。

さらに、一枚張り傘地ではその外周線のほつれを防止するために傘地用平織生地に縫い処理を施す手数が煩雑となる問題点や、傘地Kの各頂角部をそれぞれ縫い合わせる作業が煩雑となる問題

- 3 -

しほつれ止めのために予め行う縫い処理工程を不要とする。

請求項2では一枚張り傘地の製造に際し、傘地の頂角部を接合するための切断処理と縫い合わせ処理とを同時にあって各接合部の縫着作業を能率化する。

(発明の効果)

請求項1によると、傘地の展張時の展張形態を全面にわたって均整化しうるとともに、傘地のほつれを防止するために行う縫い処理が不要となるため、傘地の外周線を任意の形状に形成して多様化することができ、また、傘地の製造工程を簡略化および能率化して生産コストを低減することができる。

また、請求項2によると、一枚張り傘地の作業工数を減少させて傘地の各頂角部を接合する縫着工程での作業能率を向上させることができる。

(実施例)

次に、本発明の一実施例を図面にしたがって説明する。

- 5 -

点があった。

本発明は傘地を作成する手数を軽減し、また、傘地の展張形態を向上させることを課題とするものである。

(課題を解決するための手段)

本発明はほつれ止めされた編目構造をもつ経編地を裁断した裁断片によって作成され、かつ、縫い処理されていない裁断縁、若しくは、この裁断縁に装飾用の縫い処理を施した装飾縁によって外周縁を形成した傘地を要旨とし、また、前記経編地をほぼ正多角形状に裁断した裁断片を、その中心部とその各頂角部の先端とを結ぶ線を折り目としてそれぞれ2つ折りにし、この各2つ折り部の外端付近をそれぞれ斜めに切断しながら縫着する傘地の製造方法を要旨とするものである。

(作用)

請求項1ではほつれ止めされた編目構造をもつ経編地を用いて傘地を作成することによって、傘地の各方向への伸縮性能をほぼ均等にするとともに、裁断縁にはつれ止め効果を付与して傘地に対

- 4 -

傘地Kに使用する傘地用原布は予め染色加工が施され、また、雨水の浸透を防止するために撥水加工乃至防水加工が予め施されている。また、傘地用原布としては切断縁がほつれ止めされた編目構造を有し、緻密な編目密度および適度の伸縮性を有するトリコット編地等の経編地Tが適用される。この経編地Tは第2図に示すように経糸群によってそれぞれ編成される各編目がその四周に隣接する各編目とそれぞれ交絡するように編成され、この編地を任意の方向に切断しても切断縁のほつれが編組織によって抑止されるとともに、全方向への伸縮挙動がほぼ均等となる。

縫い合わせ傘地K1は第1図(イ)に示すように、経編地Tを2等辺三角形状に裁断して形成された適数枚(例えば8枚)の裁断片2～2の各長辺を縫い合わせて正多角形状(例えば正八角形状)に縫成され、また、一枚張り傘地K2は第1図(ロ)に示すように、経編地Tを正多角形状(例えば正八角形状)に裁断して形成された正多角形状の裁断片3の各頂角部をそれぞれほぼ三角形状

- 6 -

に切断し、切断した各切れ目の両切断縁を縫い合わせて形成され、一枚張り傘地K2の各頂角部4～4には傘地K2の展張形態が椀形状となるようにそれぞれ接合部5～5が形成されている。

上記縫い合わせ傘地K1および一枚張り傘地K2において、その外周縁は主として第1図に示すように縫い合はれ処理が施されていない裁断縁7によって形成され、若しくは、必要に応じて傘地K1、K2の装飾効果を高めるために裁断縁7に対しオーバーロック縫いやリボンテープの縫い付けによって縫い合はれ処理が施され、傘地K1、K2の外周縁には第3図に示すように装飾縁8が必要に応じて形成される。

縫い合わせ傘地K1および一枚張り傘地K2は、その中心部9と、各頂角部4の先端10とをそれぞれ結ぶ稜線11に傘骨の各親骨がそれぞれ添接されるように各親骨に被着され、傘骨の展開時にはそれぞれほぼ椀形状に展張される。

なお、縫い合わせ傘地K1および一枚張り傘地K2の外周縁を、第4図(イ)、(ロ)、(ハ)。

- 7 -

と、多数枚の縫い合わせ傘地用裁断片2が積み重ねられた積み重ね層13とを同時に作成することができる。なお、第5図に仮想線で示すように裁断縁の形状が相異する裁断片を混在させた状態で各裁断片2、3を裁断してもよい。

次に、上記方法で裁断された各8枚の縫い合わせ傘地用裁断片2をその各長辺を介してそれぞれ縫い合わせて正多角形状の縫い合わせ傘地K1を作成することができる。

また、一枚張り傘地用裁断片3をその中心部9と各頂角部の先端10とを結ぶ稜線11を折れ目としてそれぞれ2つ折りにし、第7図に示すように各2つ折り部15の外端付近を、切断刀オーバーロックミシンでそれぞれ稜線11に対して斜めに切断しながら切断縁をオーバーロック縫いし、切り肩16を切削すると、展開状態では平面正八角形状で各頂角部4にそれぞれ接合部5を有する一枚張り傘地K2を作成することができる。

次に、上記した構成をもつ実施例の作用と効果

(二)に示すように、外方へ凸曲した形状や、多数の円弧を連接した波形状等に形成してもよい。

次に、上記した傘地K1、K2を製造する方法について説明する。

まず、傘地用原布1としてほつれ止めされた編目構造を有する絨編地で、染色加工および缩水加工が施された帯状の絨編地Tを使用し、この傘地用原布1を多数枚(例えば100枚)積み重ねた積み重ね層12を、第5図に示すように、プレス裁断機によって長手方向へ順次正八角形状に打抜いて、正八角形状の一枚張り傘地用裁断片3の積み重ね層14～14を、各裁断片3がそれぞれ一頂角部を介してほぼ連接するように裁断する。また、各一枚張り傘地用裁断片3の積み重ね層14間の切り残し部位をプレス裁断機によって2等辺三角形状に順次打抜いて、2等辺三角形状の縫い合わせ傘地用裁断片2の積み重ね層13～13を、各1対の裁断片2の両頂角部がそれぞれ突合せられるように裁断する。従って、多数枚の一枚張り傘地用裁断片3が積み重ねられた積み重ね層14

- 8 -

を説明する。

上記した縫い合わせ傘地K1および一枚張り傘地K2は絨編地Tを裁断した裁断片2、3でそれぞれ形成されているため、傘地K1、K2の伸縮特性が良化されてその全方向への伸縮挙動がほぼ均等となり、両傘地K1、K2を展張したときの展張形態を全面にわたって均整化して部分的なたるみやしわの発生を抑止しうるとともに、裁断縁7のほつれを防止することができるため、傘地K1、K2の外周縁が縫い合はれ処理されていない無縫製の状態で傘地K1、K2を作成することができ、傘地K1、K2の製造工程を簡略化および能率化して生産性を高めうるとともに、傘地K1、K2の外周縁を無縫製状態とすることができるため、裁断縁7の形状を例えば波形状、凸形状等に変化させて傘地K1、K2の輪郭形状を多様化し、傘地K1、K2の意匠効果を高めうる効果がある。

従って、縫い合わせ傘地K1および一枚張り傘地K2の製造に際し、傘地用原布1に予め縫い合はれ処理を施す縫製作業が不要となるとともに、多数

- 9 -

- 10 -

。故の傘地用原布1を積み重ねた状態で裁断片2、3を打抜き裁断することができ、裁断片3の裁断作業を大幅に能率化して傘地K1、K2の生産能率を高めうる効果がある。

また、傘地K1、K2の製造に際し、一枚張り傘地用裁断片3を裁断した切り残し部分を利用して縫い合わせ傘地用裁断片2を裁断するように構成してあるため、傘地用原布1から両裁断片2、3を有効に切り抜いて裁断ロスを著しく低減させることができ、両傘地K1、K2の材料歩留りを向上させて材料コストを節減しうる効果がある。

さらに、一枚張り傘地K2の接合部5の縫着に際し、従来では切れ目を切断する工程と、この切れ目の端縫を縫い合わせる工程との2工程で接合部5を縫着していたのに対し、本例では切断処理および縫い合わせ処理を一工程で行うことができ、接合部5を縫着するときの作業工数を減少させて作業能率を向上しうる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図～第7図は本発明の一実施例を示すもの

- 11 -

10…頂角部の先端

11…稜線

13、14…積み重ね層

15…2つ折り部

T…経編地

K1、K2…傘地

で、第1図(イ)、(ロ)は縫い合わせ傘地および一枚張り傘地の平面図、第2図は経編地の編目構造を示す拡大平面図、第3図(イ)、(ロ)は傘地の他の実施態様を示す平面図、第4図(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)はそれぞれ縫い合わせ傘地および一枚張り傘地の他例を示す平面図、第5図は傘地用裁断片の裁断方法を示す平面図、第6図(イ)、(ロ)は一枚張り傘地の積み重ね層および縫い合わせ傘地の積み重ね層をそれぞれ示す斜視図、第7図(イ)、(ロ)はそれぞれ一枚張り傘地の接合部の形成方法を示す斜視図、第8図(イ)、(ロ)はそれぞれ従来の傘地用裁断片の裁断方法を示す斜視図である。

1…傘地用原布

2、3…裁断片

4…頂角部

5…接合部

7…裁断線

8…装飾縫

9…中心

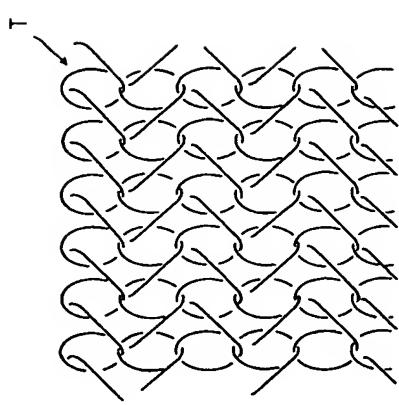
- 12 -

出願人 今川達也

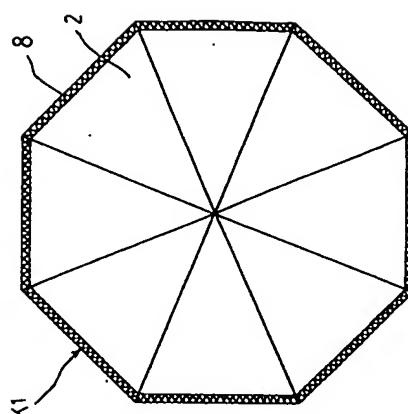
出願人 今川康仁

代理人 弁理士 関田英彦(外3名)

- 13 -

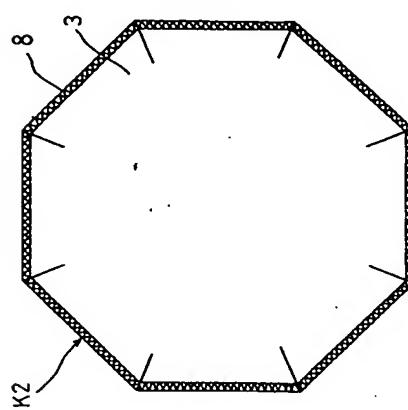


第 2 図



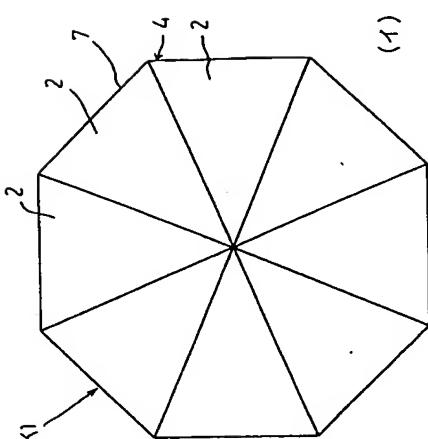
(1)

第 3 図

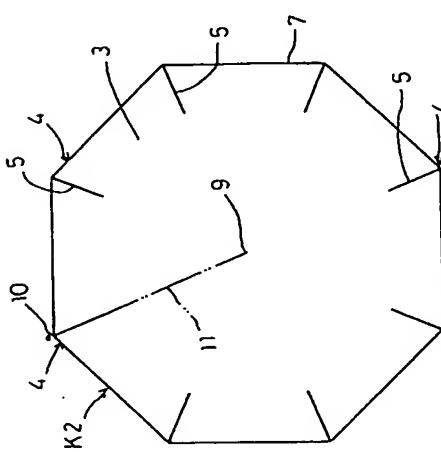


(2)

第 1 図

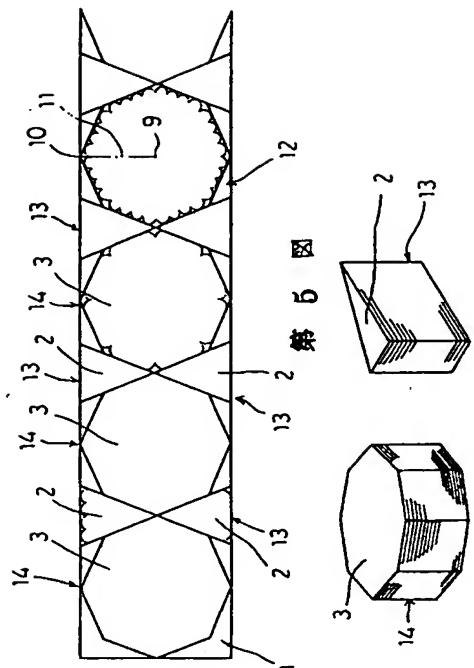


(1)

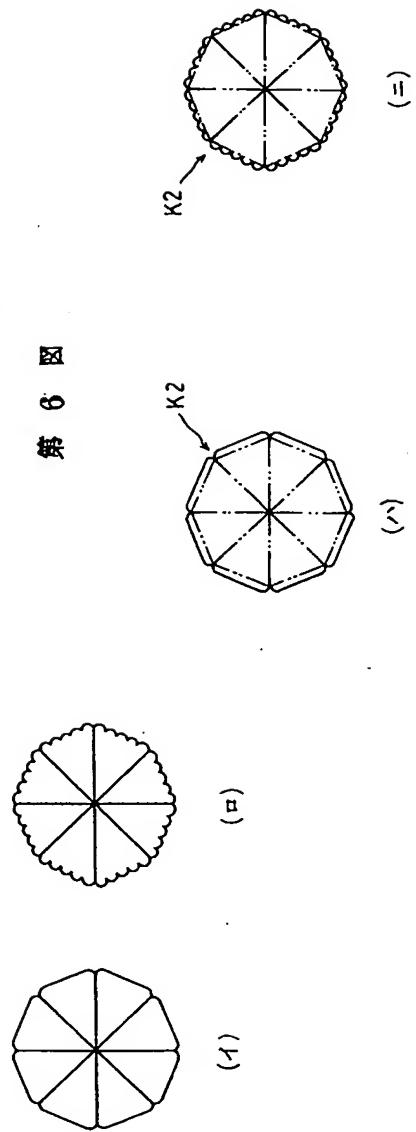


(2)

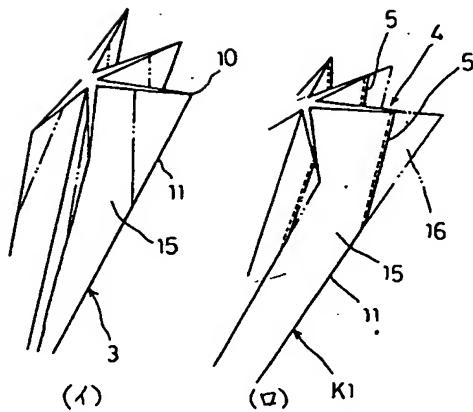
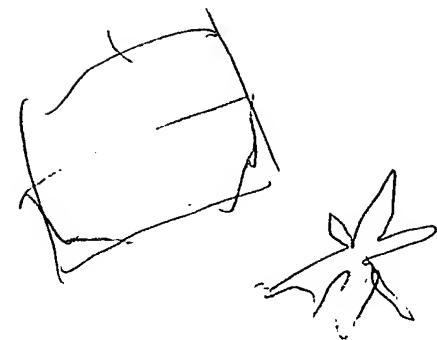
K1,K2: 全地
2,3: 板断片
4: 頂角部
7: 截断線



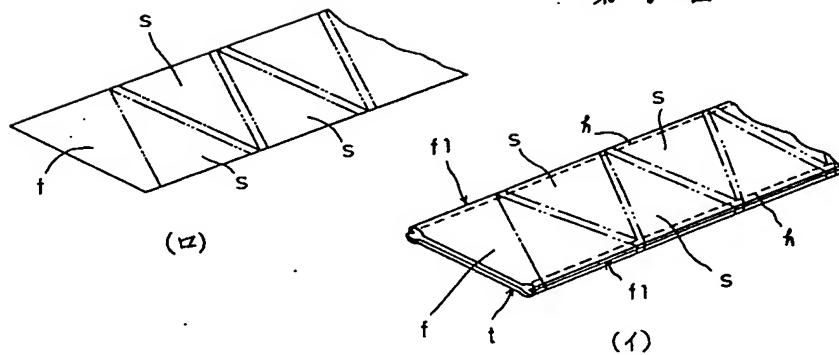
第 6 図



第 4 図



第 7 図



第 8 図

手続補正書

(方式)
昭和63年 7月 6日

特許庁長官 吉田文毅

1. 事件の表示

昭和63年特許願第064080号

2. 発明の名称

傘地およびその製造方法

3. 補正をする者

事件との関係：特許出願人

住所 名古屋市中川区西日置町2丁目6番5号

氏名 今川達也

(他1名)

4. 代理人

住所 〒460 名古屋市中区栄2丁目10番19号

名古屋商工会議所ビル内

電話 052(221)-6141

氏名 6434 弁理士岡田英彦



5. 補正命令の日付

昭和63年06月08日 (昭和63年06月28日発送)

6. 補正の対象

明細書中「図面の簡単な説明」の欄

7. 補正の内容



明細書第12頁第7行目～第10行目に「第6
図の、とは…斜視図、」とあるのを「第6図は2
種の傘地用裁断片の積み重ね図を示す斜視図、」
と補正する。

- 2 -